

事業事前評価表

1. 対象事業名
国名：モザンビーク共和国 案件名：モンテプエス - リシंगा間道路事業 貸付契約調印日：2007年3月19日 承諾金額：3,282百万円 借入人：モザンビーク共和国政府（The Government of the Republic of Mozambique）
2. 本行が支援することの必要性・妥当性
<p>モザンビークにおいては、長年続いた内戦の影響により道路整備は著しく立ち遅れており、開発途上国平均の国民一人当たりの道路密度が0.2km/m²であるのに対しモザンビークは0.02km/m²に過ぎない。また、道路（総延長約32,000km）の舗装率は約20%に過ぎず、未舗装道路は雨季には通行不能になる区間も多い。モザンビーク政府は、地域統合の推進、経済の活性化、国民の基礎的社会サービスへのアクセス確保等のため、道路セクターへの新規投資や維持管理を重点課題としている。</p> <p>同国の「貧困削減戦略文書II（PARPA II）」（2006～2009年）では、貧困人口率を54.1%（2002/3年）から45.0%（2009年）に削減することを目標として掲げつつ、道路等の基礎インフラの不足が、地方農村部や都市周辺の貧困を助長する要因であるとして、経済開発のポテンシャルのある地域や、貧困度の高い地域のインフラ整備を行うことによって、農産物を中心とする市場拡大と交易活性化を図ることとしている。</p> <p>同国の道路セクター戦略（Road Sector Strategy 2007-2011（以下、「RSS」という。））は、市場活性化支援、地方へのアクセス確保、地域と幹線道路の接続、地方分権、道路工事の質の確保等を目的とし、更に貧困削減においてはPARPA IIの目標達成指標と整合的になっており、道路ネットワーク拡充による貧困削減への貢献の点で、両者の目標は一致している。また、RSSは経済性、道路のネットワーク効果、受益者の便益、貧困層への裨益の観点から道路事業の優先順位付けを行い、効率的な新規投資及び維持管理を実施する方針であり、本事業は中でも優先度の高い事業として位置づけられている。</p> <p>本事業は、特にインフラ整備が遅れており、貧困人口率も高い北部2州（カーボ・デルガド州及びニアッサ州の貧困人口率（2002/3年）は、それぞれ63.2%、52.1%）において、両州を結ぶ国道14号線のうち一部区間（269km）の改良（舗装、拡幅等）を行なうものである。これにより、モザンビークにおける主要な農業生産地域である同地域において、回廊周辺地域の農業生産物（トウモロコシ、米、綿花、たばこ等）の流通の円滑化、物流拠点であるナカラ港及びペンバ港や国内北部最大の消費市場であるナンブラへのアクセス改善、地域住民の基礎的社会サービスへのアクセス拡大が促進され、同地域の開発及び貧困削減に寄与することが期待される。</p> <p>本行は海外経済協力業務実施方針（2005～2007年度）において、「持続的成長に向けた基盤整備」、「貧困削減への支援」を重点分野と位置づけ、道路を含む経済・社会インフラの整備を通じて経済成長を促進するための支援を重視している。また、アフリカの民間セクター開発のための共同イニシアティブ（EPSA for Africa）の支援方針においても「経済・社会インフラの整備」及び「貿易・直接投資促進」を重点分野に位置付けており、本事業は同イニシアティブの趣旨に合致する。従って、本行が本事業を支援する必要性・妥当性は高い。</p>
3. 事業の目的等
本事業は、モザンビーク共和国北部に位置するカーボ・デルガド州モンテプエス～ニアッサ州リシंगा間の国道の拡幅・改良を行なうことにより、輸送能力増強、物流拠点へのアクセス改善を図り、もって地域住民の生計向上、地域経済の活性化及び貧困削減に寄与するもの。

4. 事業の内容

- (1) 対象地域名：モザンビーク北部カーボ・デルガド州及びニアッサ州
- (2) 事業概要：カーボ・デルガド州モンテプエス～ニアッサ州リシंगा間の国道14号線516kmの内269kmの拡幅、舗装改良及び橋梁建設等を行なうもの。本事業は、一部区間は本行及びアフリカ開発銀行(AfDB)によるジョイント協調融資、その他の区間はスウェーデン国際開発協力庁(SIDA)による贈与によって行われる。
土木工事
コンサルティング・サービス(施工監理等)
- (3) 総事業費
12,022百万円(うち、円借款対象額：3,282百万円)
- (4) スケジュール
2006年11月～2011年8月を予定(計58ヶ月)
- (5) 実施体制
借入人：モザンビーク共和国政府(The Government of the Republic of Mozambique)
実施機関：道路庁(ANE：National Roads Administration)
運営・維持管理体制：に同じ
- (6) 環境及び社会面の配慮
環境に対する影響/用地取得・住民移転
 - (a) カテゴリ分類：A
 - (b) カテゴリ分類の根拠：本事業は、「環境社会配慮確認のための国際協力銀行ガイドライン」(2002年4月制定)に掲げる影響を及ぼしやすい特性に該当するため、カテゴリAに該当する。
 - (c) 環境許認可：本事業に係る環境影響評価(EIA)報告書は、2006年9月に環境省により承認済み。
 - (d) 汚染対策：本事業は既存道路の改修であり、大気汚染・騒音等による重大な負の影響は予見されない。
 - (e) 自然環境面：事業対象地域は、国立公園等の影響を受けやすい地域またはその周辺に該当せず、自然環境への望ましくない影響は最小限であると想定される。
 - (f) 社会環境面：本事業は72世帯の住民移転を伴い、同国国内法等に沿って補償手続きが進められる。
 - (g) その他・モニタリング：本件では、実施機関等が土壌流出や排水溝の水域管理、住民移転、野生動物との衝突事故等についてモニタリングする。

貧困削減促進
本事業対象地であるカーボ・デルガド州及びニアッサ州の貧困人口率(前述の通り)は、ニアッサ州は全国平均の54.1%を若干下回るものの、両州とも貧困人口率は50%を上回っている。従って本事業による受益者には貧困層を含む地域住民が多くを占めると考えられ、本事業実施が地域住民の社会サービス(教育・保健施設)へのアクセス改善や生計向上をもたらして貧困削減に貢献することが期待されている。よって、本事業は本行定義の貧困対策案件に認定できる。

社会開発促進(ジェンダーの視点等)

 - (a) HIV/AIDS対策：モザンビークではHIV/AIDS対策を国家政策の1つとして重点的に取り組んでいる。本事業対象地域でのHIV/AIDS感染率は、ニアッサ州で11.1%、カーボ・デルガド州で8.6%であり、交通の改善に伴う人の流入により感染率が增大する危険性を回避するため、本事業においても啓蒙活動や検査等のHIV/AIDS対策が講じられる予定である。
 - (b) ジェンダーの視点：道路建設にあたり、ANEは地域コミュニティの労働者雇用を計画しているが(約200人)、ジェンダー配慮の観点からそのうち25%は女性の雇用を確保する方針である。
 - (c) 社会開発事項のモニタリング：ANEは、環境・社会配慮を確実にを行うため、施工監理コンサルタントの一員として環境・社会配慮担当者を雇用する予定。
- (7) その他特記事項：本事業はモザンビーク共和国に対する初めての円借款である。

5 . 成果の目標

(1) 評価指標 (運用・効果指標)

指標名		基準値 (2005 年)	目標値 (2010 年) [工事完成時]注
年平均日 交通量 (台/日)	モンテプエス～バラマ間 (54km)	264	611
	バラマ～ルアッサ間 (81km)	204	518
	リトゥンデ～リシंगा間 (66km)	130	401
走行費の削減 (USD/台 km)		0.443	0.222
所要時間の短縮 (機会費用：USD/日)		192	110

注) 工事完成時は土木工事終了時とする。

(2) 内部収益率 (経済的内部収益率 EIRR) : 19.6%

費用：事業費 (税金を除く)、維持管理費

便益：所要時間の短縮、走行費用の節減

プロジェクト・ライフ：20 年

6 . 外部要因リスク

原油価格上昇による土木工事費用等の上昇

7 . 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

過去のアフリカでの案件にて維持管理の不足により、道路の維持管理が芳しくなく道路利用に影響を及ぼしていた事例があったことから、道路基金の運用状況、過積載規制等について AfDB 等を通じて十分監視していく。

8 . 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる指標

年平均日交通量 (台/日)

走行費の削減 (USD/台 km)

所要時間の短縮 (機会費用：USD/日)

経済的内部収益率 (EIRR) (%)

(2) 今後の評価のタイミング

事業完成後